



柿に寄せて

先日、次郎柿が給食で出たところ、教室から、「柿が赤くなると 医者が青くなる」ということわざが飛び出しました。意味は知っていますか。柿は栄養価が高く、柿が出回るころになると皆が健康になり、医者が暇になるという意味で、よく知っていたなと感心しました。

他にも柿を用いたことわざは多くあるので、特徴として「人の成長」と結びつきのあつものが多くあります。

有名なのは

桃栗三年 柿八年

意味は、桃と栗は芽生えてから三年、柿は八年で実を結ぶということから、何事も成就するまでには相応の年数がかかることを表します。

また、あまり聞かれなくなつたものとして、

霜に打たれた柿の味 辛苦に耐えた人の味

があります。軒先に吊るされた渋柿は、冬の寒空にさらされ、霜に打たれることで美味となる。それと同じく、人も辛さや苦しさに耐えてこそ、人生の味わいが増すということを意味します。

ここまで柿に寄せて、いろいろな言葉を並べてきましたが、要するに何が言いたいのか、もうわかりますね。

テスト勉強をがんばってことです。勉強を「辛苦」とまでは思いませんが、そのがんばりは、自分の進路を拓き、人生を豊かにするための、今の自分にできる最大限のことです。

これからみんなが迎えるのは「第四回定期テスト」。四回です。まだ四回です。年に定期テストが五回あり、それが三年間…。半分どころかまだ三分の一も終わっていません。

まだまだこれからであり、これから先で結果



を残すことが大切です。そのための今のがんばりです。桃や栗のごとく、三年かけて受験生としての姿勢を身につけていきます。そして、柿のごとく、義務教育の九年（柿は八年ですが…）かけて、人として大切なものを身につけていきます。

授業後の学習会では、教科の先生に細かな質問をする人がいました。課題を早々に終わらせて、次の学習に取り組む人もいました。すばらしいことです。

この週末の自分自身の取り組みに、どれだけの成長が見られるか。自分自身との闘いです。柿を食べ、栄養つけて、いざ勝負。

★保護者のみなさまへ

本日、「令和六年度修学旅行についてのアンケート」のプリントを配付いたしました。内容を確認していただき、記入をお願いします。提出期限は十一月二十五日（金）までです。よろしく願います。

